

北大経済学部 同窓会報

Hokkaido University
Faculty of Economics

第39号



発行者
北海道大学経済学部
同窓会

発行日 2023年9月1日

TEL & FAX (011) 706-4113

Email dosokai@econ.hokudai.ac.jp



ごあいさつ

北大経済学部
同窓会会長
板谷 淳一
(昭和53年卒)



この度、上野前会長のあとを受け、同窓会会長を拝命した昭和53年卒小林好宏ゼミ出身の板谷です。上野前会長は、10年を超える年月にわたり、温厚なお人柄と実行力で本同窓会の発展に尽力されました。この場を借りて深く感謝申し上げます。

新型コロナウイルスもようやく終息の兆しが見え、正常な経済生活に戻りつつあります。北海道大学でも今後は入学式、卒業式、ホームカミングデーなどの行事がすべてオンラインではなくリアルでの開催となります。今後は人と人が直接交流し、旧交を温め合う機会も増えてく

ることでしょう。他方、リモートでのコミュニケーションは迅速で手軽であることを私たちは覚えました。しかしそこでは希にはありますが誤解や相互不信を生む可能性もあります。匿名性を利用して、ネット掲示板に根拠のない誹謗中傷を書き、しばしば議論が過激になり炎上が始まったりします。最近、経済学でもナラティブ経済学というものがあることが指摘されています。そうすると、SNSにある不確かな情報が独り歩きして、経済に対して大きな混乱をもたらす可能性があります。ナラティブに惑わされることなく、直接会って相手がどんな人間であるかを理解し、相手の発言の真意を確認するためにもリアルでのコミュニケーションが大切であると思われます。現実世界では武力衝突や過激な政治的対立が増えていますが、リアルコミュニ

ケーションが増えれば、そのような相互不信を避け、人間同士の連帯感や共感を促進するものと思われます。イノベーションは単独の個人で行うよりも、多くの人たちが共同で行った方がより効率的であることは知られています。同窓会活動も、今後はできるだけリアルなコミュニケーションを基本として活動したいと思います。同時に、会員の方々は全国各地に及ぶので、必要に応じてリモートでのコミュニケーションの利点を生かして会員相互の緊密化やビデオ会議などの導入も図りたいと思います。これらのコミュニケーションを通じて、本同窓会の発展のためにお知恵やご提案をいただいて、同窓会活動に何らかのイノベーションを起こせればと願っています。

最後になりますが、会報にご寄稿、ご協賛をくださった皆様に御礼を申し上げます。これらのご貢献も重大なイノベーションへの一歩と考えています。



この4月より経済学部長/経済学院長の2年目となりました。今年度もどうぞよろしくお願い致します。新型コロナウイルスもだいぶ落ち着き、コロナ禍前の日常を取り戻し始めました。対面授業はゼミ・演習のみという厳しい対応から、講義も含めて対面を基本とするという方針となり、GW以降に新型コロナウイルスが2類からインフルエンザと同等の5類へ移行したこともあり、大学ではコロナ禍以前の生活に戻りつつあります。

以下では経済学部長/経済学院長としての昨年度1年間を振り返ってみようと思います。まず、4月の初旬に新入生に対する札幌コンベンションセンターでの入学式への出席から始まります。大学院入学式は各学院・研究科が独自に行っており、経済学院の入学式も人文社会科学総合教育研究棟W103室において対面形式で行われました。その後GWが終わり、大学キャンパスが落ち着いてくるわけですが、6月初旬に大学祭があり、コロナの影響で規模を縮小し行われました。(今年度の大学祭は通常の形態で行なわれ、多くの市民が北大キャンパスを訪れ、コロナ禍前のように大いに盛り上がっていました。)7月末で前期の授業が終了し、8月の中旬に期末試験がありました。同時期にオープンキャンパスが行われ、模擬講義や模擬ゼミといったイベントに多くの高校生が参加しました。お盆前に前期の業務が終了しました。

お盆後にはいよいよ大学院の一般入試があり、コロナの影響もあり、オンライン面接で実施されました。(今年度は筆記試験と対面に

よる面接という通常の実施形態へ戻ります。)9月になると学部・大学院での集中講義があり、下旬から後期の授業が開始されました。また、卒業生に再び北大キャンパスを訪れてもらうことを目的にしたホームカミングデーという大学主催の一大イベントがありました。午前中は大学主催のイベントが、午後は文系4学部合同の主催でシンポジウムを行い、その後、経済学部同窓会の総会が開催され、少数で懇親会が行われました。(今年度の文系4学部合同開催イベントは経済学部が担当で、既に案内の通り、本学部の岡田美弥子教授の司会で釧路出身の直木賞作家である桜木紫乃さんにご講演を行って頂きます。卒業生の皆様にはその後の同窓会総会も含め是非ご出席をお願い致します。)10月にはコロナ禍で延期になっていた韓国の延世大学とのジョイントセミナーが開催され、活発な討論が行われました。歓迎会は恒例のジンギスカン料理店で行われました。12月の教授会が終わりまして先生方の仕事も一段落となります。

年が明けて1月になりますと、いよいよ受験シーズン到来となり、大学入学共通テストがあり、下旬には外国人を対象とした大学院入試もありました。例年多くの外国人からの応募があります。2月になりますと、学外の識者によるアドバイザリーボード会議があり、様々な観点よりご意見を頂きました。下旬には前期日程試験があり、担当部局という事で経済学部の多くの先生に試験監督等の業務に携わって頂きました。3月になりますと後期日程試験があり、経済学部では小論文試験が行われました。そして最後に学生や大学院生に対する学位授与式が大学体育館において開催されました。以上が1年間を通して学部長/学院長として携わってきた大まかな報告であります。

最後になりますが、昨年9月に小山光一名誉教授が、そして今年1月には経済学研究科長などを歴任された吉見宏理事・副学長がご逝去されました。お二人とも言葉では言い表せないご貢献を本研究院にされましたことを深く感謝し、ご冥福をお祈りしたいと思います。吉見先生には6月に北大より特別功労章が授与されましたことをこの誌面にてお伝えいたします。

3ヵ年再生計画を23年5月総代会で議決しました。 計画を豊かにするために、知恵をお寄せください。

北大生協は、大学に集う学生・院生・教員・職員によって構成され、すべての構成員のつながり、参加を大切に、理事会、生協職員とともに経営・事業を営んできました。しかし、北大生協の経営は過去15年を見ても赤字構造だったことを前提に、コロナ禍による急激な供給高の縮小に経費節減が追いつかないことで大きな累積欠損が生じました。出資金に対する債務相殺率が70%（2021年度当期末処理欠損金2億7,300万円）を超える事態となりました。経営は危機的な事態と重く受け止め、抜本的な経営再生計画の立案、執行が必要な状況を認識し、「北大生協3ヵ年再生計画」策定委員会を立ち上げ、全国大学生生活協同組合連合会、大学生協事業連合北海道地区、北海道の大学生協の支援を受けながら3ヵ年再生計画を策定しました。

これまでに大切にしてきたつながりを引継ぎ、組合員、大学、他の協同組合と協力して組織再生（*組合員の共同による生活向上を図る運営への再生）、事業再生（*大学生活を支え、安定した剰余を生む構造への再生）計画を実現させ、組織の活性化が急務です。

(北大生協3ヵ年再生計画 序文から)

3ヵ年再生計画全文 https://www.hokudai.seikyoku.ne.jp/univcoop/pdf/board/soudaikai/soudaikai_gian202301.pdf

北大生協代表メールアドレス seikyoku@coop.hokudai.ac.jp



UNIV.
CO-OP

北海道大学生生活協同組合

新任の挨拶

伊 藤 翼 (2022年度着任)

皆様はじめまして、私は2019年3月に博士号を取得した後、東京都内の研究所で研究員として1年間、大学で助教の2年間を過ごしてから、2022年4月に北海道大学大学院経済学研究院に着任しました。専門分野は数理統計学で、統計学の理論的な話やそれを実社会のデータに応用することに関心をもって研究活動をしています。

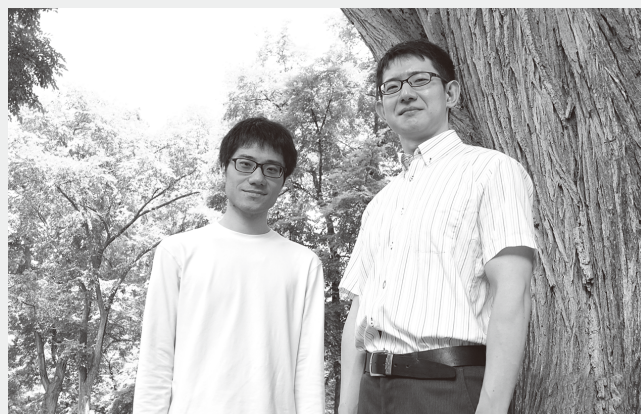
北大の印象については、私は着任するにあたって初めて北大を訪れましたが、これほどまでに広大なキャンパスに豊かで季節ごとに様変わりする自然と程よい都会の雰囲気が調和されているのは、今まで東京近辺で過ごしてきた私にとっては大変な趣深さを感じさせてくれるものでした。またそのためでしょうか、ゆったりとした時間が流れているような感覚があり、研究に没頭し思考を巡らせるには最高の環境なのではと日々その幸せを感じております。

今後の抱負ですが、ここでは教育活動について述べさせていただきます。対面形式の授業は北大に来てから初めて担当しましたが、対面授業でこそその気づきがありました。例えば、どの授業でも熱心な学生から質問をもらうことがありますが、そのおかげで彼らに伝わりやすくするためには何をどこから言えばよかったのかなど、私の方が教わることが多いところがあります。これからは専門的な話をなるべく分かりやすくというのはもちろんですが、その面白さも伝えられるように頑張っていきたいと思います。

最後になりますが、私は大学教員としてはまだまだ新米です。果たすべき職務の多くを一からこの北大で学び積極的に取り組んでいきたいと思っています。今後ともよろしくお願いいたします。

相 澤 俊 明 (2022年度着任)

2022年4月に経済学研究院に着任いたしました。現在、学部と大学院で計量経済学関連の科目を担当しております。私に関心をもっている研究分野は医療経済学と応用計量経済学であり、医療経済学は応用経済学では比較的マイナーな分野



(左 伊藤先生、右 相澤先生)

なのですが、2020年以降にはパンデミックの影響で健康というものの重要性が否応なしに再認識され、日本においても知名度が徐々に高まりつつあります。私自身はアジア途上国のデータを分析することが多いのですが、人々の生活環境や健康状態をデータから想像しながら分析を行う作業が、論文執筆の作業の中で一番好きな過程です。

私は埼玉県出身で、北海道での新生活は未知の体験にあふれていました。広大な北大キャンパスは自然豊かであり、朝には学生や教職員が自転車で大移動する姿が印象的でした。私の学部時代の大学、そして職業人として初めて勤めた大学も都内の私立大だったこともあり、北大の広いキャンパスは今でも新鮮です。今年で北海道生活も2年目に突入しました。昨年、北国の厳しい冬を乗り越えることができ、だんだんと北海道民としてのアイデンティティを確立しつつあります。

北大の学生はおとなしい学生が多いというのが昨年度の印象です。先生に話しかけたかったが、勉強に直接関係ない話をしてもいいのか迷っている学生に先日も遭遇しました。思い返すと、自分が学部学生だったときも、大学の先生に話しかけるとときには少々緊張し、大教室の講義にも関わらず、名前を覚えてもらった時には嬉しかった思い出があります。勉強や進路のこと、そして日常的なことを相談しやすい教員になり、夢と可能性のある学生たちをサポートしていければと思います。

札幌の家具付き賃貸ならノースステイ

North Stay

North Stay は、札幌でウィークリー・マンスリーマンションや家具家電付の賃貸マンションを運営しております。ご旅行や出張など、お客様のあらゆるシーンにあわせて、快適な住居空間をご提供させていただきます。

〈ノースステイホームページ〉
www.north-stay.com/

札幌のマンスリーマンションならノースステイへ！
北大関係者様多数ご利用いただいております。

賃貸生活

株式会社 賃貸生活
代表取締役 佐藤 有

こちらのフリーダイヤルまでお気軽にお問い合わせください

【ノースステイ受付窓口】

【札幌オフィス検索窓口】

フリーダイヤル

☎ 0120-277-271 011-206-8996

〒060-0062 北海道札幌市中央区南2条西9丁目1-2 サンケン札幌ビル2F
TEL 011-206-8996 / FAX 011-206-8127

□ 賃貸生活のホームページ
www.on-1.net

吉見宏先生を追悼する



理事室にて

吉見宏 先生のおゆみ

- ・1961年8月 長崎県にて生まれる
- ・1980年3月 長崎県立長崎東高等学校卒業
- ・1985年3月 九州大学 経済学部経営学科卒業
- ・1987年3月 九州大学 大学院経済学研究科修士課程修了
- ・1990年3月 九州大学 大学院経済学研究科博士後期課程単位取得退学（のちに博士（経営学）北海道大学）
- ・1991年2月 北海道大学 経済学部 講師
- ・1993年2月 北海道大学 経済学部 助教授
- ・1996年5月 英・シェフィールド大学 客員研究員
- ・2004年6月 北海道大学 大学院経済学研究科 教授
- ・2009年4月 北海道大学 会計専門職大学院 院長
- ・2012年4月 北海道大学 大学院経済学研究科研究科 研究科長
- ・2016年4月 北海道大学 副学長
- ・2020年10月 北海道大学 理事・副学長
- ・2023年1月2日 ご逝去

北海道大学在職中に、北海道道旅客鉄道株式会社社外監査役、北海道公益認定等審議会会長、会計理論学会会長など、産学官における要職を歴任。

あたり前のことほど疑え

吉見ゼミ1期（平成6年卒）長谷川 潤

人生においては様々な人から教えを被り、様々な言葉を授かる。吉見宏先生からは、感謝しきれないほど多くの教えと言葉を賜った。これまでの人生で社会や地域に少しでも役に立てている自分がいるとすれば、それは北海道大学とそこで出会えた当時29歳の吉見先生との出会いこそが、その唯一の理由であると思えてならない。

私が北海道大学の門をくぐったのは1990年。バブル景気の華やかさがまだ残る時代の大学生活のスタートだった。

当時は、入学して2年間は教養学部在籍し、各学部に移行するというシステムであった。記憶では、教養学部2学年の後期より移行先の学部の授業を受けることができ、文Ⅱだった私は経済学部で吉見先生が担当されていた会計学総論を選択。それが先生との初めての出会いとなった。当時は、原理原則的な講義より、マーケティングや会計など比較的社会に出てから即戦力となりうる科目が学生のトレンドとして人気があったと記憶している。そんな中でも、吉見先生の授業はとても興味深く、非常にわかりやすく、多くの学生に会計学の魅力を伝えたことに疑いの余地は無い。土曜日の一限目という学生が敬遠するような時間帯の講義であるにもかかわらず、軍艦講堂の大講堂が学生でいっぱいであったということがそれを証明している。成績が悪かった私は、その成績表において数少ない「優」を会計学総論でいただいた。それくらい面白くて興味をひかれた授業であった。

私は、学部移行後、迷わず吉見ゼミを選択し、吉見ゼミ1期生として私の人生に大きな影響をあたえてくれた吉見先生から多くの教えと言葉を賜ることになる。

吉見先生は、我々にとって先生というよりは年の離れたお兄さんのような存在であった。親しみのある笑顔が印象的で、何より我々に近い存在でいてくれた。勉強したくないという不純な理由で「外でゼミをしたい」と提案すれば、やってみようと言ってくれ、中央ローンでゼミをしたこともあった。やってみれば、教室の中とは異なる感覚があり、議論も少し違ったものになっていたような気がしたものだ。

吉見ゼミでは、議論に重きが置かれた。会計学はネタであり、その多くの時間を割いて物事の本質とは何かと様々な議論やディベートを行った。吉見先生はものすごく寛容で様々な意見に耳を傾けてくれ、真摯に応えてくれた。議論の最中、先生の口元が緩み「ニヤツ」とほほ笑んだ時は、我々は先生の仕掛けた網にかかった魚状態であり、そこから新たな議論に進展したものであった。

議論では様々な教えや言葉を賜ったが、最も印象に残っているのが、「あたり前のことほど疑え」という冒頭の言葉である。時に我々は、常識やあたり前のことを前提として物事を考えてしまうが、それでは本質を見誤り、誤った結論を導き出してしまう可能性がある。「オセロは片面白いけど、ひっくり返すと黒いだろう」と先生から言われ、あたり前と思うことを疑い、物事を一方向からではなく多面的に見ることにより本質に近づけるということを教わった。

今となれば、外ゼミの開催もゼミは教室で行うというあたり前を疑い、ゼミの本質は議論を行うことであり、更に環境を変えることで新たな議論が生まれる可能性があるという先生の思いだったに違いない。

私が社会に出てまもなく30年がたつ。これまで、様々な経験をしてきた。難しい判断に迫られたとき、本当にこれしか選択肢が無いのかと疑い、新たな選択肢を見つけ、物事の本質を常に考えて判断してきたつもりだ。そして、その傍らにはいつも国立大学の変革や新たな大学のあり方、地域への貢献について奔走されている吉見宏先生の姿が常にあった。あたかもそれは、「あたり前のことを疑え」ということを先生が自ら体現されているようで、卒業後も多くの教えや勇氣、希望を先生から貰っていた。

正月気分が抜けきらずに仕事始めを迎えた2023年1月5日、突然のその知らせに、嘘であって欲しいと願い、激しく動揺し、悲しみのどん底に突き落とされた。

あれから、8か月。未だ悲しみが癒えることはないが、吉見宏先生の教え子であったという誇りを胸に、その教えに恥じぬよう精一杯前を向いて歩いて行こうと、毎日誓うのである。



永遠の幸

2期（平成7年卒） 檜山 純

吉見宏先生の北大任官より、1期生の先輩の北大入学のほ
うが早い。そして、2期生の入学は、任官の2か月後である。
古き佳き時代の吉見ゼミ1期生と2期生は、当時最も若かつ
た吉見先生と、「よく遊び、よく学べ」を満喫した。ジンパ
をはじめ、早川ゼミとのソフトボール大会、ゼミ旅行、さら
に合宿の帰りには、ご自宅で奥様のおいしい手料理をごちそ
うになるのが常であった。

昨年のとある日、吉見先生は、研究室で、1期生の先輩の
ご来訪を満面の笑顔で迎えた。私たち3人は、限られた時間
の中、過去ではなく、現在とこれからを語り続けた。

吉見先生も私も、卒業間近に、指導教官の勧めで内定を
蹴って進学し、同じ分野の研究者になった。古き佳き時代か
ら長く過ごしてきた私との、理事室での最後の会話は、「あ
と何か聞いておくことはない？」に「また来ますよ」である。
幾度時を戻したと
しても、お互いに
同じ言葉をかける
であろう。「言っ
ておきたいことは
ない？」であって
も返事は変わらない。

「また来ますよ。」



御恩

7期（平成12年卒） 藤森 允浩

恩師、吉見先生。友のように語り合い、兄のように支えて
いただき、そして父のように私を導いてくれました。かけが
えのないゼミの仲間と出会い、先生が背中を押してくれたこ
とで私は公認会計士になる夢を叶えることができました。

監査役と会計監査人としてご一緒する際、厳しい議論の後
にお酒を飲み振返る時間が幸せでした。先生からの質問、い
つも答えに窮する難問ばかりでした。

2022年4月に発刊された「ビギナーズ会計学」、先生の旧
知の皆様の中で職業専門家として参加でき宝物となりました。

先生、私は先生に少しでも恩返しできましたでしょうか。
先生から返しきれないほどいただいたご恩。先生の教えに恥
じないよう北海道経済を支えられる公認会計士になります。
それが私にとっての先生への恩返し。いつまでも見守ってい
てください。

追慕

13期（平成18年卒） 吉田 綾(旧姓 松井)

学ぶとはなにか、学問とはなにか、大人とは、生きるとは
どういうことなのか。先生は学生という人生のモラトリアム
を生きる私達にそんなことを示し、教え、時に表現してくだ
さいました。一人ひとりを尊重しながらも、必要な時には叱
咤激励して私達を社会人の卵にしてくださった先生には感謝
しかありません。初めて聴講した講義や青空ゼミ、ご自宅へ
の訪問や旅行、OB会など、先生との思い出を振り返ると本
当にキリがありません。願わくば、ス
スキノあたりでそれら思い出話を肴にもう
一度先生と呑みたいところでしたが、叶
わぬ夢となりました。いずれあちらでお
会いした際に恥ずかしくないよう皆で研
鑽を積みますので、その時はワンパイン
トのビールで乾杯しましょう。吉見先生、



本当にありがとうございました。先生のもとで多くを学べて
とても幸せでした。

吉見先生、お元気ですか

18期（平成23年卒） 岡坂 忠寛

いつもご活躍を目に耳にしていたので、先生は今何して
らっしゃるのかなという感覚が、自然と心から湧きます。先
生の笑顔が、鮮明に浮かびます。

新渡戸稲造さんの『武士道』に、吉見先生そのものだと
思った文があります。

「『私を生んだのは父母である。私を人たらしめるのは教師
である』、この考えがいきわたる とともに、教師が受けた尊
敬はきわめて高かった。そのような信頼や尊敬を若者にい
だかせるような人は必ずすぐれた人格をもち、学識に恵まれて
いなければならなかった。その人たるや、父のない者たちの
父であり、迷える小羊たちの助言者であった。」

私はこれから志を果たします。

これからも吉見
先生が私の導きで
す。吉見先生から
教えを頂けたこと
に、言葉にできな
い大きな感謝です。
これからもよろし
くお願いします。



教えの灯と共に

24期（平成29年卒） 坂入 翔一郎

吉見先生のご逝去の報に接し、心から哀悼の意を捧げます。

ゼミの活動で特に記憶に残っているのは7年前の四国旅行
です。ツインルームとダブルルームが間違えて予約されると
いうハプニングがあったものの、会計だけでなく鉄道や歴史
にも詳しい先生と昼夜を共にしながら語り合い深く知ること
ができた旅行はとても貴重な思い出です。

吉見先生は、ゼミでは真面目な議論を重視しつつも、中央
ローンで青空の下ゼミを行ったり、HBCの方々と一緒にジ
ンパをしたり、札幌と東京でOB/OG会を開催したり、新し
いことを受け入れる懐の深さや人との繋がりを尊重される皆
が尊敬する先生でした。

計報を聞いて以
降、直接恩返しを
することができず
とても悔やまれま
すが、先生のように
皆から尊敬され
る人になれるよう
私も精進してい
かねばと思い改める
日々です。



あとがき：本特集ページの完成に至るまでに、関係者の皆様
から多大なるご協力を賜りました。皆様の様々なお気持ちが
誌面からあふれており、改めて吉見先生のお人柄が深く偲ば
れます。企画・執筆・編集に関わられた皆様も含め改めて感
謝申し上げます。

北海道大学大学院経済学研究院准教授 岡野泰樹



懐かしの荒又ゼミ

思い出ひとつ

北海道大学の国際交流事業の一環に韓国の延世大学とのご縁がありますが、その出発点は、わたくしが学部長を勤めていた時に本学部が延世大の商経学部と結んだ協定があります。韓国では大学の全体を大学校、学部を大学と言いますから、協定を結んだ相手側は延世大学校商経大学でした。ともあれわたくしは新川士郎先生や石垣博美先生のお考えを慮り、たまたま商経大学長尹起重（ユン・キジュン）先生が一橋大学の大学院で黒田重雄先生や小野浩先生と知り合いであったチャンスを生かして協定を決めました。

黒田先生に同行してもらい、延世大学卒で大学院黒田ゼミの李 性熙（リ・ソンヒ）さんに世話を焼いてもらいながら先方を訪問しました。延世大学校の総長は医科大学出身で、以前延世大学校キャンパスが学生運動の拠点になっていた時に学生を弁護して解雇された旧約聖書学の教授を、副学長で呼び戻したり、創設者（キリスト系の）のお屋敷を構内に残したりと精力的に大学の運営に取り組まれていました。上述の尹先生は現在の韓国の大統領尹錫悦（ユン・ソンニョル）氏のお父さんです。

さて私は、戦時下断絶と戦後の貧乏が大学の研究・教育における国際交流に特別な困難をもたらしていた最悪の条件を背負っていました。国際交流という柄に合わぬ仕事に取り組んだことについては、「文化大革命」を経た中国からたくさんの

留学希望者が北大にも押しかけてくるようになった時点で、まず研究教育で尊敬しあう関係が他国の大学とあってのち、その橋を渡って学生たちの交流があるべきだと、強く感じたことがありました。延世大学の方々から学んで、faculty exchange, student exchange の語の意味を噛みしめたものです。



1990年韓国延世大学にて
手前左 荒又・奥左 黒田先生・手前右 尹先生

みんな貧しかった

佐藤 正人 (昭和45年卒)

荒又ゼミは昭和43年（1968年）に学生4人でスタートしました。「大講堂の授業はサボっても、ゼミだけは休むな」というのが、学部生の行動規範でした。少人数で先生と顔を突き合わせてのゼミは家族的で和やかなものでした。

最初のテキストはビグーの『厚生経済学』でした。マルクス経済学だったら、まずは『資本論』となるところですが、『資本論』から始めると最初の商品論のところで挫折することを先生は危惧したのだと思います。2年目から『資本論』を読み出すと、難解でとても苦労した記憶があります。

このころ先生は最初の著作『賃労働の理論』を出版します。日本の社会政策学と賃労働の原論をつなげる試みですが、近代経済学だけでなく大河内一男、隅谷三喜男、宇野弘藏など大御所をことごとく批判します。ケンカの仕方と切れ味が、私たちには小気味よかったです。

けれども、ゼミの場ではそんなところは見せず、私たちの未熟な議論を温かく見守ってくれました。理論だけでなく労働現場こそが原点だと、夕張に行って炭鉱労働者から聞き取りをしたこともありました。あのころはゼミ生みんなが貧しかった。先生は、勉強よりも生活のことを心配していた気がします。アルバイトに追われ、それでいてサークル活動や学生運動にのめり込む。人生に悩み、肝心のゼミにも欠席しがちな仲間が出てくる。そして北大紛争では経済学部の封鎖がありました。先生は脱落しかけたゼミ生をなんとか卒業させようとしていました。「どう生きるかを考えるのは、社会に出てちゃんとメシが食えるようになってからでも遅くない」。いま考えると、そんなメッセージだったと気付かされます。

荒又ゼミを回顧して

弘田 紀靖 (昭和55年卒)

先日、会報の原稿依頼を受け大学生活を振り返るにつけ、ゼミ生活が改めて懐かしく思い出されました。

経済学部に移行するにあたり荒又ゼミを選択したのは、同級生の間でも荒又先生の評判がすこぶるよろしくて充実した学生生活を送ることができると思ったからです。事実、荒又先生をはじめ先輩諸氏が優しい方が多く、経済学部内でも一、二を争う活動的なゼミでもありました。

各種イベント、スポーツ大会への参加をはじめとして『東日本ブロックゼミナール』への参加を前提としたゼミ連絡組織の立ち上げや、『大滝セミナーハウス』を利用した勉強会の実施等経済学部内での中心的な役割を果たしていたように思われます。

大学卒業後も山梨さん（昭和57年卒）の尽力により、荒又先生をお招きしての『勉強会兼懇親会』を定期的に開催しております。

近年は定年退職者も順次増えてきてゴルフコンペや温泉旅行などで親交を深めており、今後の展開を楽しみにしているところです。



荒又先生の思い出

小樽商科大学学長 穴沢 眞
(昭和55年学部卒, 昭和62年博士後期課程修了)

北大の学部時代は1年間留学をしたため、ゼミでお世話になった期間は実質1年しかありませんでした。一旦は社会人となりましたが、研究者の道を志し、会社を辞め、札幌に戻りました。その当時、荒又先生は研究者となることの大変さを私のことを案じながら語られました。一方で、どこにも所属のない私が大学院受験の準備をするために図書館を利用できるよう、手続きを進めて下さいました。幸い大学院に入学できましたが、その後の指導はユニークだったかもしれません。先生の専門である社会政策ではなく経済発展を研究テーマとしていたため、毎週先生の研究室にうかがい一週間の勉強の成果を報告するということが1年間続きました。修士2年目の時、ロータリークラブの奨学金を頂いてマレーシアのマラヤ大学に留学しましたが、その際も推薦状を書いて頂きました。

異なる専門分野の研究をしているにもかかわらず、いつも温かく応援して下さいました。大学に務めるようになり、学生時代、そして大学院時代に先生から頂いていた言葉の意味が少しずつ分かるようになりました。期せずして小樽商科大学の学長を仰せつかった際にも心温まる励ましの言葉を頂きました。大学人としての矜持を教えて頂いたと思っています。

私の中のAI (ARAMATA Intelligence) 高田 正之 (昭和56年卒)

荒又先生におかれましては北大退官後、釧路公立大学学長等の要職を歴任、そして叙勲と素晴らしいご活躍で荒又ゼミOBとして嬉しい限りです。今も先生から頂く年賀状は年々字勢を増し、まだまだアクティブな日々を過ごされているご様子が目に浮かびます。

私の経済学部移行に際してのゼミ選択基準は極めて単純でした。荒又先生は学生に優しい、という噂が荒又ゼミ選択の理由でした。ゼミでの研究対象は、それまで聞いたこともないピグーの厚生経済学。噂どおりの荒又先生の優しさに甘え、ピグーは理解できないまま学部生活を終えてしまいました。それでも無事卒業し、拓銀へ就職することもできました。ゼミの落ちこぼれだった私が社会に出るにあたって、荒又先生にはさぞご心配をおかけしたと思います。拓銀は破綻してしまいましたが、その後移った北洋銀行で4ヶ店の支店長を経験し、無事銀行員生活を終えることができました。今は銀行から紹介を受けた札幌市内の病院に勤務しています。

昨今、環境破壊や格差拡大の問題から、資本主義の限界が議論されています。今も私の本棚に眠っているゼミで使ったテキスト「経済学者と現代⑦ピグー」を、いつか読み返そうと思っています。

時代の転換期に学んで

釧路公立大学学長 小路 行彦
(昭和59年博士後期課程単位取得退学)

院生、助手時代は世界的には激動の時代でした。昭和60年は、ソ連でペレストロイカが始まった年です。ベルリンの壁崩壊は元号が改まった平成元年で、ソ連で保守派によるクーデターが起きて、ペレストロイカも社会主義も崩壊したのは平成3年です。その時、私は北大を離れ、釧路公立大学に講師として赴任していましたが、時代の大きな転換期を、ロシア研究者でもある先生と過ごすことができたのは幸運でした。午前中の研究が一段落する頃、先生が研究室に立ち寄られる度に様々な話を伺いましたが、今でも記憶に残っているのはロシアの話です。



私の研究は、先生の賃労働論を直接継承したものとは言えませんが、先生の著作を思い返してみると、暉峻義等の「結成労働力」への着目に、影響を受けたものであることに気づかされます。賃労働を豊に捉えようという先生の精神は、受け継いだものと考えています。先生は北大を早期に退職され、本学の学長として釧路にこられました。私は、北大時代と合わせて16年間先生の下で学んだことになります。今私が学長として進めている構想も、先生が先鞭をつけられたものに少し工夫して展開したもので、当時の先生の情熱に感嘆する日々です。

アラマタノサブロー

濱田 康行 (北海道大学名誉教授)



荒又先生とは延世大学と一緒に行きました。北海道大学経済学部の海外交流の一環で、開催が交互（ソウルと札幌）に行われ、その年はこちらが出かける番でした。当時、先生が学部長で、後に北海道武蔵女子短大の学長になられた内田和男先生と私が同行しました。まるで黄門様に助さん・格さんですね。

テーマは忘れましたが、私も無理矢理、下手な英語で報告すると、お二人とも、よかったよかったと誉めてくれました。実はドタバタでしたが、お二人はやさしいのです。

荒又先生は、いつからか、風の又三郎にちなんで、自らを“アラマタノサブロー”と名乗り、様々な文章を書いておられました。いずれも格調高く教養に満ちた見事なものばかりです。商家に生まれた私などとは違い、さすが学者一家に生まれた方だな！その格調と風格にいつも感心するばかりでした。

学部長時代の“学部長メモ”はかなりの分量ですが、配布されるのが楽しみでした。そうそう、先生が労文協に移られてからの小冊子シリーズは晩年の傑作でしょう。読書量の豊富な先生の批評家としての精神がいつも息づいていました。

私がはまなす財団にいた頃は、財団が駅近くの便利なところにあったこともあり、しばしば立ち寄って下さいました。それは先生との得難い対話の時間でした。

こうした機会をまた持てるように、私もたくさん本を読んで、論客アラマタノサブローをお迎えしなければと思っています。



受賞の喜びと 感謝の思い

地下鉄の開通・延伸は大気汚染を削減するか

大阪市高速電気軌道株式会社 田 村 柁
(令和5年卒)

この度は、特選論文経済学部長賞・同窓会長賞最優秀賞に選出していただき、誠にありがとうございます。このような、名誉のある賞を頂けたことを大変嬉しく、光栄に感じております。

今回、私は、「地下鉄の開通・延伸は大気汚染を削減するか」というタイトルで論文を執筆しました。本論文の目的は、地下鉄と大気汚染の関係についての知見を広げることです。本論文では長年に渡って大気汚染が問題となっている中国を取り上げました。地下鉄は自動車代替する効果があるとされており、大気汚染を解消する手段として急速に発展しています。そこで私は、地下鉄と大気汚染の関係に着目し、それらの関係を実証的に分析することにしました。この分野の実証的な研究は数少なく、追加的な見方を示すことができると考えたためです。

検証を進めるため、中国の31の大都市における地下鉄と大気汚染のデータ（PM2.5, PM10, O₃, NO₂, SO₂, CO）を複数のソースから収集し、独自のパネル・データを構築したうえで計量分析を行いました。分析の結果、地下鉄による削減効果が認められるのはCOのみとなりました。また、その場合、地下鉄の自動車代替効果によって大気汚染が削減されたとは認められませんでした。この結果から、地下鉄の開通・延伸によってCOが削減されるが、そのメカニズムは地下鉄による自動車代替効果によるものではないと結論付けました。

私は本研究から、データ分析の結果を解釈するための基礎的な素養が身についたと思います。分析結果からこういった考察が考えられるのか、こういった思考を巡らせることは社会人として生きていくうえでも必ず役に立つと確信しております。

卒業論文を執筆するにあたり、指導教官である樋渡雅人准教授には、多大なるご指導を賜りました。論文の読み方から分析の内容まで、的確なご指導無くして本稿の完成はありませんでした。また、同じゼミの皆さんからは、文章の体裁や使用する単語の選定など細かい部分にまでたくさんのアドバイスをいただきました。この場をお借りして感謝申し上げます。これからは北大経済学部で過ごした宝石のような4年間を、社会人生活の土台として精一杯邁進して参りたいと思います。



規範逸脱的被服行動での感情:大学生の就職活動に注目して

北海道大学会計専門職大学院 植松春菜
(令和5年卒)

この度は、特選論文経済学部長賞・同窓会長賞優秀賞を頂き、誠にありがとうございます。名誉ある賞を受賞でき大変嬉しく、光栄に思います。この場をお借りいたしまして、選考委員会の方々、関係者の皆様に、厚く御礼申し上げます。以下、簡単に卒業論文の内容をご紹介します。

本研究の目的は、就職活動での被服行動に関して、社会規範から逸脱しつつも集団規範には従う逸脱場面で、学生がどのように感じるかを明らかにすることです。この研究に取り組む背景として、就職活動において、学生は、多様性や自分らしさを働く際の基準として重視しながらも、被服には個性が見られないことが挙げられます。

私は、就職活動においてリクルート・スーツを着るべきという社会規範が存在し、一部の学生に「カジュアルな服装でも構わない」という集団規範があると想定しました。そのうえで、学生を対象とした質問票調査を通じて、逸脱場面を想起させ、日常生活での意識とその状況での感情の関係について実証研究を進めました。分析の結果、①日常から、自分にはあまり良いところがない気が強くする者は、逸脱場面において、気分がふさぎ憂うつな気分が強い、または、自己を表すことや自己をそのまま承認し受け容れることができるとは感じにくい、②日常から、自分の気持ちを強く抑えがちな者は、逸脱場面において、意見を主張すること、または、自分を好意的に受け入れることが難しいと考えることがわかりました。

卒業論文の執筆活動を通じて、当たり前を見つめ直すことの重要性を特に感じました。私は、就職活動での被服行動に
対して、少し立ち止まって考えたことで、この研究を行えたと
考えています。現象に対して疑問を投げかけることは、どの
分野においても必要であるため、今後もその意識を持ち続
けたいです。また、自分で決めた道を走り切り、それを他者
に評価してもらったのは初めての経験でして、この受賞のお
かげで、今後の人生に自信を持てました。

ご指導ご鞭撻を賜りました阿部智和先生、共に切磋琢磨したゼミ生、そして関わってくれた全ての方々に感謝しております。北海道大学経済学部での恵まれた環境で4年間を過ごすことができ、大変貴重な経験となりました。本当にありがとうございました。



— 同窓生の近況 —

白夜のスウェーデンより

田 島 正 博 (昭和56年卒)

昨年(2022年)1月、北大経済学部卒業以来40余年勤めてきた住商を退職した。現役時代は主に海外事業経営のお世話をさせていただき、その大半を海外で過ごした。若い時分にはハードシブの高いアフリカや中東を飛び回っていたが、50歳のころより欧州の現場を転々とした。そのため、欧州には学生時代の留学仲間に加え、仕事を通じて知り合った親しい友人が大勢いる。そこで、退職時の勤務地であったスウェーデンの田舎に古い小屋を買い求めた。北緯60度の森と湖に囲まれてのんびり暮らしながら、欧州各地の友人たちを訪ね歩いている。

北緯60度と言えばオホーツク海の北の果て、カムチャッカ半島の付け根のあたり。メキシコ湾流の影響でスウェーデンの気温はカムチャッカほど厳しくはないが、冬は寒く、暗く、長い。冬至の日照時間は5時間50分、メンタルを病む者や自殺者が増える。ウィンタースポーツやときおり天空に舞うオーロラを見る楽しみもあるが、筆者は軟弱者で厳冬期にはたいがい日本などに避難している。

待ち焦がれた夏が到来すると、スウェーデンの人々はよくサマーハウスやキャンプ場に足を運ぶ。夏至の日照時間は18時間50分、夜通し明るい白夜である。そして夏至に最も近い土曜日が夏至祭で、民族衣装を纏った人々が広場に集まり、独特の装飾を施したメイポールを立てる。メイポールが完成すると人々は、楽団の音楽に合わせメイポールの



夏至祭

周りを輪になって踊り、短い夏の到来を喜び、その年の幸運を祈り、子孫の繁栄を願うのである。

メイポールの起源はわからないが、中世にはゲルマン民族の地域で広く用いられていたらしい。ドイツなどではその名の示す通り主に五月祭で使われるが、北欧ではもっぱら夏至祭に使われている。そのため、メイポールはミッドサマーポール(midsommarstång)とも呼ばれる。写真は、コロナ前なら夏至祭の時期に国内外から2万人が訪れるというダーラナ地方の中心、レクサンドの町はずれの広場での夏至祭の様子。

湖の向こうに水平に近い角度でゆっくりと沈む夕陽を眺めながら、北海道を懐かしく思いだしている。

近うて遠きもの

浪 岡 大 介 (平成4年卒)



「近うて遠きもの 宮のべの祭り。思はぬはらから、親族のなか。鞍馬のつづらよりといふ道。」私が北大経済学部を卒業したのは1992年。恩師佐々木隆生先生のゼミで学んだ日々は今でも忘れられない思い出です。その後、外交官としてワシントン、ジュネーブ、ジャカルタへの赴任を経て、いまはソウルの日本

大使館で勤務しています。近くて遠い国といわれる韓国ですが、日本に似ているようで、まったく違うお国柄に戸惑うことも多い毎日です。ある日、大手財閥企業の幹部に挨拶に行くと、いきなりこう言われました。「自分と何某という有力議員とは同郷で高校から大学まで先輩後輩の間柄、非常に近い関係にある。いつでも紹介してあげます。」それから華麗なる人脈と交友関係をとっくりと傾聴することになるのですが、結局、彼自身がどんな人物なのかあまり印象に残りませんでした。司馬遼太郎の言葉を借りれば「統治の原理であり、多分に体制そのもの」である峻厳な儒教が、李氏朝鮮500年で隔々まで行き渡った社会では、他者との関係で自分を規定することから人間関係がはじまります。国際関係でも、韓国はどの陣営のどの位置にいる

か、世界で何番目の国なのか。そこが大いに気になる国民性があるようです。一方、保守系新聞の論説委員と会食した時のことです。日韓関係の難しい話題に触れた時、「雨にうたれる人がいれば、私は傘を差し出す人よりも、とくに雨にうたれる人になりたい。」韓国人にはそういうメンタリティーがあると教えてくれました。言った後で軽く笑って「本当は口先だけですけれどね。」一流の知識人が持つ心地よい情緒とペーソスに触れたような気がしました。別れ際に次に会う日をその場で決めようと言われ、4か月先の日程を示されました。お互い忙しい日々です。そんな先の日程をあらかじめ決めることに躊躇を覚えます。でも良いのだそうです。「その日に会えなくても約束は残る。会えなければ、遠く離れた友のことを思ってお互い杯を傾ける日にしよう。」50代半ばのオジさん同士の会話ですから、浪漫のかけらもないのですが、韓国の人たちの情の深さには心をうたれます。清少納言は、枕草子の中でこう続けています。「遠くて近きもの 極楽。舟の道。人のなか。」今は少し遠くても、いつかこの国が近い国になる日がきつと来るような予感がします。(文中の意見に関する部分は、私個人の見解です。)

たくさんの縁に導かれ、
34年目になりました

坂崎 雄一郎 (平成7年卒)



「うわあ！外国に来たみたいだなあ！」東京の高校を出て、受験で初めて北海道に足を踏み入れた時の率直な気持ちです。

実は、北大は記念受験で東京を離れるつもりはありませんでした。しかし合格発表後、北海道から「生協、寮、サークル、住まい等のDM」が続々

と届くうちに、「もしかして北海道が俺を呼んでいる？」
と思うようになり、ついには「北海道、行ってみるか！」
と決心するに至りました。

大学時代は「他人と違う経験を沢山しよう!」とコミックバンドを結成してライブをしたり、テントひとつで北海道中をバイクで旅したり、年齢や育った環境が違う友人と交流したり、勉強は殆どしませんでした。親元を離れ仲間たちと「まるで家族のように」濃密に過ごした時間は、私にとってかけがえの無い財産です。

気づいたら「愛着のある北海道で働きたい」と思うようになり、北海道の企業に就職し、20代をがむしゃらに働く中で「起業してビジネスの力で北海道を元気にしたい！」

という「志」が芽生え、35歳で（株）感動いちばを創業し、北海道の食を全国に販売する事業を営んでいます。ちなみに我が社では歴代たくさんの北大生がアルバイトとして活躍してくれ、卒業後に入社した北大OBが3人もいます。

人生とは本当に不思議なもので、こんなに不真面目な学生だった私が、平本先生とのご縁で、母校の後輩に向けて講義をする機会を、これまで5回ほどいただきました。毎回、講義の前日は楽しみで「修学旅行の前日」のような気持ちになります。今の学生さんに伝えたいメッセージが多すぎて、いつも「時間オーバー」や「予定の半分も話せていない」のですが、このような機会をいただけるのは、本当に有難いことだと思っています。

たくさんの縁に導かれ、北の大地に根を張って34年目。もう東京の慌ただしい暮らしには戻れそうもありません(笑)。

私の原点—岡田ゼミ—

小林 弘 宗 (平成16年卒)



昨年、卒業後に就職し18年勤務した自動車メーカーから、パーソナルケア事業を展開するスタートアップ企業に転職し、現在は家族と共にシンガポールに駐在している。

転職前はインドに駐在していた。インドでは、横入りは当たり前、道を尋ねても間違っ
て案内されることがある

など、ストレスの溜まる日々が続いた。ある時、とある人からインド人の価値観を教えて頂いた。それは「あなたは他人に迷惑をかけて生きているのだから、誰かに迷惑をかけられても、それを許し、助けなさい」というものだった。インド人にとっては、迷惑な横入りを許すこと、助けたい一心でうろ覚えでも道案内をすることが、正しい振る舞いなのである。なるほどと腹落ちした。

インドに駐在する前は、アフリカと中東地域の現地法人に対して、人事労務のコンサルタントをしていた。新規のポジションであったため、とりあえずバックパックを背負って現地に赴いた。ケニアやナイジェリア、南アフリカなどアフリカ大陸をぐるりと周る1ヵ月超の出張を1年に数回行う。それぞれの文化や習慣を理解し、現地従業員の成果を引き出す施策を展開する手探りの3年間だったが、少しずつ成果を出し、充実した日々が過ごせた。

話は在学中に変わるが、私は岡田ゼミの1期生だ。掲示板の前でゼミ生募集のビラを見ていた光景はいまだに覚え

ている。今だから言えるが「よくわからない中に飛び込んでみたい」という魅力に駆られたのだ。ゼミの文化を一緒に創り上げていこうとする雰囲気があり、そのプロセスも楽しかった。また、同じ価値観を持つ仲間にも恵まれた。こうした岡田ゼミの原体験がアフリカでの仕事の土台となり、キャリアにも影響していると思う。現在、人生の折り返し地点を迎え、当時の経済学部の学舎と仲間たちとの日々を思い浮かべながら、今後の人生をより豊かに楽しみたい。

出会いから18年の絆と 平本ゼミ25周年祝賀会

保田 優衣 (平成19年卒)

2005年に平本ゼミ生となってから早くも18年。男性4名、女性3名で構成された私たち9期生は、7名全員が個性にあふれ、主張の激しいにぎやかな学年。ゼミの苦楽を共にした一体感のみならず、真面目さ(!)とゼミ愛の強さが見事にシンクロした結果、今も互いに親友と呼び合える関係性である。

多才でウィットと示唆に富み、学生にも本気で向き合ってくださる平本先生のもとで学んだ2年間は濃厚な時間だった。当時の先生の年齢に近づくほどに、20歳近く離れた学生たちに数多くの成長機会を与え、相当なエネルギーを費やしてくださったことへの敬意と感謝が強くなっていく。その思いから、折に触れて先生を囲む機会をつくってきた。2007年のゼミ設立10周年、そして2017年の20周年の祝賀会。毎回、1期生から現役生まで数十名の門下生が集まり、現役時代を彷彿とさせる宴が遅くまで続く。色褪せ

ないゼミ文化に触れ、心が熱くなる瞬間である。

コロナ情勢も少しずつ変化を見せ始めた2022年、気づけば平本ゼミは25周年。大規模な宴は厳しくともサプライズで何かしたいと話し始めたのが1月のこと。それぞれがスケジュールを調整し、家族に頭を下げ、準備を進め、8月に札幌で同期だけのささやかな祝賀会を行った。二次会は思い出の場所居酒屋松で。店を選びながら、飲み会もまずコンセプトを考えるとところから始める、当時の先生の姿が頭に浮かんだ。半数以上が道外在住。それでも全国各地から全員集まり、先生が来るのをワクワクしながら待っていた空気感と胸の高鳴り。あの時の皆の表情は、20歳の頃と少しも変わっていなかった。

卒業から16年経過し、現在はフリーランスの事業開発コンサルタント・人事として働きながら、通算4校目となる大学への進学を目指している。学校という場での学びと研究を今なお渴望している理由の1つは、北大での強烈で意義深い経験があったからこそ。人生の宝物に出会うきっかけをくださった平本先生とゼミ仲間に、心からの感謝の意を表したい。



第40回 北大経済学部法学部対抗ゴルフ大会

毎年経済学部OB、OGのゴルフ好きが集まって法学部同窓会と対抗戦を行なっています。6月24日(土)の札幌エルムCCは記念すべき第40回目の大会に相応しい絶好のゴルフ日和。今回は常連が都合でゴッソリ抜けましたが、その分フレッシュなメンバーの参加もあり、いつも通りの楽しく賑やかなプレーが繰り広げられました。

プレー後の表彰式・懇親会では各賞が発表され、団体戦、個人賞ともほぼ我が経済学部の圧勝でした。優勝は西澤明広さん(昭和60年卒)準優勝は野崎恒義さん(同36年卒)3位森下裕志さん(同61年卒)と上位を独占、また飛び賞(5、10位)、プービー、猛打賞さらにベスグロ、大波、逆大波、水平、ベストドレッサー賞など全て経済学部の総ナメでした!

和気藹々の会食のあと、来年の再会と仲間の勧誘を誓って散会となりました。両同窓会より支援を頂いており、今年も参加者はたくさんの賞品を持って帰途につきました。

最近またゴルフブームが来ているようです。どうか北海道在

住の方はぜひご参加ください。またこの機に合わせてゼミの同窓会などを企画していただくのもいいと思います。希望する友人と一緒に回ることも可能です。また初心者でも上位になれるようダブルベリア方式を採用しています。

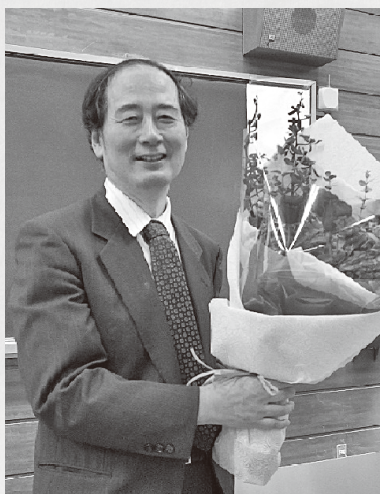
お問い合わせは経済学部同窓会事務局まで。なお、来年も3月下旬までには開催日等の詳細をホームページに掲載します。

(文責 岩本栄一 昭和49年卒)



経済学部の圧勝でした!

小山光一先生を偲ぶ



小山光一先生は、2022年7月23日に67歳でご逝去されました。

先生は、1990年に北大経済学部に着任され、2020年3月の定年退職後も引続き非常勤講師として、亡くなるまで財政学の研究・教育にご尽力されました。

小山先生と経済学の議論を闘わせた記憶は、私にはありません。先生のご専門がミクロ経済学を基礎とする財政学、私はマルクス経済学による経済原論ですから、無理もないでしょう。研究の枠組みの違いを互いに確かめると、話題をそれとなく変えることが多かったように思われます。ですから、先生のご業績については、北大のWEBページで読むことのできる『北大時報』822号（2022年9月）に譲ります。ただ、先生が教育熱心でいらしたことは、記しておこうと思います。それに気づいたのは、先生のご着任の2、3年後、学部初年次向けの入門科目の一部の担当をお願いすると、大学院で勉強したのは若い人に教えるためだからと快く引き受けてくださり、その科目が廃されるまで丁寧な講義を続けられたときでした。

小山先生と私とは、ふた月違いの同い年。先生は埼玉県のご出身で私は東京都ですが、どちらも東京都心から1時間ほど。私が研究棟5階の研究室を使っていたときには隣同士。遅くまで研究室にいて、夕食を誘い合うこともしばしばでした。教授昇任も一緒ならば退職も一緒。出身大学・大学院が異なり、私の方が2年半ほど早い着任でしたが、似たような地域で育ったせいもあってか、近しい同僚として30年間も付き合い合えたことになります。

小山先生とのいちばんの思い出は、先生、（故）吉野悦雄先生とそこご家族、佐々木憲介先生、私とで神恵内村のキャンプ場に泊まり、積丹やニセコ、雷電海岸をドライブしたこと。私の運転する車は、先生の甲高い声に佐々木先生との3人の、賑やかな道行きでした。湯船につかり海を眺めた温泉ホテルは既に廃業したと聞き、懐かしさがいっそう募ります。

小山先生と最後に顔を合わせたのは退職日の数日前、私が自分の研究室の片付けをしていたときです。先生は、「ヨッ！ 片付け具合を偵察にきた」と、いつもの声で笑いながら右手を少し振るような仕草で入ってこられて、しばし雑談。あのときの先生の表情は鮮明に覚えているのですが、何を話したか……。思い出そうとするたびに、寂しさが込み上げてきます。

小山光一先生のご冥福を、心よりお祈りいたします。

名誉教授 岡部洋実 記

北海道大学経済学部同窓会

では同窓生のみなさまからの同窓会報に掲載する企業広告を募集しております

お気軽にあなたの会社の広告を掲載してみませんか？

みなさまよろしく願いいたします！

学生支援の新たな取り組み

その1 出前講義

昨年(2020)年の10月から同窓会では学生の就職支援に向けての初めての試みとして、出前講義を始めました。一昨年、学生支援としてコロナ禍の中で学生たちに何ができるかと検討した結果、物資の支援を行い大変好評をえました。その折りに学生たちにアンケートをとり、学生支援として何を希望しているのか調査しました。その結果一番多かったのが就職支援でした。どのような方法が有効かいろいろ検討した結果、平本健太教授の2年生向けの授業「マネジメントⅡ(経営管理Ⅰ)」をさせていただき、経済学部、経済学研究科の同窓生に依頼し4回の出前講義を学生たちに提供しました。

第一回 松尾 悠さん(平成19年卒,肥前ゼミ) 北洋銀行
「社会人16年生が考える:「学ぶこと」と「働くこと」



続けているボランティア活動のこと、なぜ東京出身の松尾さんが北海道の銀行を選んだのかなど、学生に向けてご自身の経験を語って下さいました。学生たちに課した課題はアウトドアメーカーとして台頭してきていた「スノーピーク」の役員交代についての意見を求めるものでした。

第二回 渡辺 勇喜さん(平成17年卒, 平本ゼミ) 渡辺組
「不確実な時代を生き抜くために:



について説明されました。その後渡辺さんはANAを退社し、ご実家である遠軽の会社を継ぎ、次々と新たな事業の展開や開発を行っている現状と、これからの時代何が大切なのかを熱く語られました。学生たちへの課題は「あなたの武器（強み）は何ですか？社会でどう活かしていきたいですか？」でした。

第三回 川越 柊子さん(平成29年学部卒, 令和2年修士修了, 町野ゼミ) デロイト トーマツ
「コンサル漂流記:得手に背を向けて」



川越さんからは始めにコンサルの仕事とは何なのか、どのようなプロジェクトがあるのかなどの説明があり、では実際に自身がどのような仕事に携わっているのか、と具体的に話されました。その後学部時代のこと、大学院に入っの学びについてなどにについて語られ、就活についてなど詳しく説明されました。学生たちへの課題は「1. 私の価値観と自分の価値観の一致度は何%ですか？ どういったところが特に違っていませんか？ 逆に一致している点はどこですか？ 2. 自分のやりたいことと得意なことをそれぞれひとつずつ挙げてください。現時点ではどちらを優先していきたいと考えていますか？ それはなぜですか？」でした。

第四回 井利 顕(平成21年修士修了) 北海道銀行
「地方銀行における有価証券運用の実務」
※オンラインで行われました



について語られました。第一回の松尾さんとはまた違った銀行の業務を知ることができました。実際の資金運用の最前線にいる井利さんのお話は、現実的な側面と、理論による分析、そのリスクなど多岐に及び、株式投資の現実を知る大きな手がかりとなりました。学生への課題は「あなたが銀行の運用担当者で100億円を有価証券で運用するなら、どのように投資しますか？」でした。

講義はたくさんの学生からの質問もあり、活発な交流が行われました。リアクションペーパーの回答は各同窓生にも送られました。

今年も4名の同窓生に依頼しています。今後長く続けたいと考えておりますので、是非自薦、他薦問いませんので、学生たちに就職の現状などいろいろお話しいただける方がいらっしゃいましたら、事務局までご連絡下さい。(時期は10月から12月を予定しております。)

その2 北海道の経済を活性化させるための地域経済活性化プラン コンテスト



2022年11月10日（木）経済学部同窓会主催「北海道の経済を活性化させるための地域経済活性化プラン」プレゼンが開催されました。テーマは「北海道経済：コロナの時代をい

きる、経済を活性化させるために何ができる！？」です。

同窓会が学生支援の一環として初めて取り組んだ企画でした。何組の応募があるだろうかと心配しましたが、7組の応募があり、厳正な事前審査の結果5組がプレゼン発表に進みました。

プレゼン10分、質疑応答5分による知力の戦いを5名の審査員（同窓会役員1名、久保田学部長、出前講義をしていただいた企業人2名、助教の先生1名）とオーディエンス（Zoom

からも）たちが見守りました。結果は最優秀賞（5万円）地元愛（4年2名、3年2名）、ナイスアイデア賞（3万円）HIKO（4年2名、3年1名）、グッドプラン賞（3万円）

チーム草塩（修士2年1名、4年1名、3年2名）が受賞し賞金をGetしました！内容はどのチームも拮抗しており、審査員たちも頭を悩ませました。講評ではもう少し学生らしいわくわくするようなアイデアがあってもよかったのでは、



との意見もありました。今年もこのコンテストを開催します。是非多くの学生に参加いただき、このイベントをまた卒業生と一緒に盛り上げていただけたらと思います。



ご寄附のお願い

150th
HOKKAIDO UNIVERSITY

北海道大学
創基150周年記念募金
（北大フロンティア基金）

2026年、北海道大学は創基150周年を迎えます。

多様な人材が持続的に新たな価値を生むキャンパスへの転換に向けた「人と人を、時を、緑を、夢を、実を、結ぶ」をキーコンセプトとする古河講堂の改修・利活用事業や、未来社会を創造する人材育成事業「Innovation Front Runner（仮称）」など、次の150年を見据えた記念事業のため、2023～2026年度の4年間、北大フロンティア基金は「創基150周年記念募金」として、皆様からのご寄附を募集しております。

寄附方法

ウェブサイトの「寄附をする」から、ご寄附方法（クレジットカード決済、郵便振替・銀行振込、コンビニ決済）を選択ください。



URL ▶ <https://www.hokudai.ac.jp/fund/>



個人の方 ▶



法人・団体の方 ▶



お問い合わせ先

北海道大学広報課卒業生・基金室

〒060-0809 札幌市北区北9条西6丁目 北海道大学百年記念会館内
TEL 011-706-2017 FAX 011-706-2010 E-mail kikin@jimu.hokudai.ac.jp

就職状況

- ・昨年度の卒業生もまだコロナ禍が続く中、オンライン中心の就職活動でした。しかし学生たちはこのような現状も応用力を活かし就職状況は変わらず好調を維持しているようです。大企業からベンチャー企業、比較的新しい企業などその進路も多彩です。
 - ・同窓会も今後よりいっそう在学生の就職支援のあり方を模索していきたいと考えます。
- 卒業生のみならずにおかれましても、さまざまな場で在校生に会われましたら、気さくに声がけし、相談にのっていただけたらと思います。北大生は東京や大阪などの学生たちに比べて少し「シャイ」なところがありますが、ぜひその持っている「力」を引き出せるよう、ご支援をお願いいたします。
- ・就職率（就職希望者が分母）は昨年より学部は微減していますが進学やその他の理由もあるかと思えます。一方修士や会計大学院の就職率はアップしています（博士は今年データがありませんでした）。学部が96.5%、修士が87.5%、会計大学院が91.7%となっています。（進学率は学部約10%、修士23%）

学部

- 【5名】札幌市
【4名】北洋銀行
【3名】日本生命、北海道電力、ニトリ
【2名】日本政策金融公庫、北海道銀行、東京海上日動火災、SMBC日興証券、NEC、京セラ、EY ストラテジー・アンド・コンサルティング、北陸電力、楽天、オロ、あずさ 監査法人、EY 新日本有限監査法人、アクセンチュア
【1名】農林中央金庫、三井住友銀行、三井住友信託銀行、ゆうちょ銀行、西日本シティ銀行、広島銀行、鳥取銀行、みずほフィナンシャルグループ、みずほ証券、北洋証券、野村証券、大和証券、損害保険ジャパン、大同生命保険、明治安田生命保険相互会社、全国信用協同組合連合会、北海道信用農業協同組合連合会、三菱UFJニコスカード、JFEエンジニアリング、サントリーホールディングス、ウェルファーマ、AGC、issリアライズ、パナソニックハウジングソリューションズ、旭化成、三菱重工、住友電気工業、ヤンマーホールディングス、東洋紡、TomoniSolutions、バルカー、出光興産、JFEスチール、日本製鉄、マキタ、パナソニックオートモーティブシステムズ、パナソニックインダストリー、村田製作所、日立製作所、パナソニックコネクタ、マツダ、東京ガス、北海道ガス、dely、KDDI、NRIネットコム、NTTドコモ、NTT東日本、エコモット、EVERRISE、QUICK、プロジェクトカンパニー、サイド・ビー、シンプレクス、ソフトバンク、

ダイヤモンドヘッド、フラワーヒルズ、BookLive、NTTデータ、sukima、いえらぶgroup、オーグス総研、トラストブレイン、ピーアンドアイ、ビジネスブレイン太田昭和、大塚商会、中京テレビ放送、日本コントロールシステム、日本コンピューターサイエンス、日本トータルシステム、日本電気、富士通、北央情報サービス、JFE物流、全日本空輸、日本航空、大阪市高速電気軌道、東日本高速道路、日本郵政、ティーエスビー、DCM、メガネトップ、豊田通商、オリックス、パーク24、サンケイビル、札幌駅総合開発、三井不動産、三井不動産リアルティ札幌、森ビル、AAIC Japan、NTT都市開発、アビームコンサルティング、イグニッション・ポイント、レイヤーズコンサルティング、セブテニ・ホールディングス、ブリーチ、リヴァンプ、京阪ホールディングス、代官山税理士法人、トライグループ、ネオキャリア、パーソルキャリア、コンベンションリンケージ、ジャストファイン、日本年金機構、会計検査院、自衛隊幹部候補生、北海道経済産業局、北海道公安調査局、北海道庁、新潟県庁、埼玉県庁、静岡県庁、沖縄県庁、大阪府役所、安来市役所、小樽市消防本部

修士

【2名】アクセンチュア

【1名】

北海道銀行、みずほ銀行、China Everbright Bank、東海東京フィナンシャル・ホールディングス、豊田合成、北海道建設業信用保証、SHISEIDO CHINA、XGIMI(エクス ジミー)、ニトリ、アジレット、Ernst & Young (China) Advisory、アーネスト・アンド・ヤング、日本IBM、あずさ監査法人、監査法人トーマツ、秋田会計事務所、税理士法人エンカレッジ、税理士法人渡邊芳樹事務所、天使学園、アガルートアカデミー、日本貿易振興機構 アジア経済研究所、大阪国税局、北海道庁

博士

北海道大学経済学研究院

恩師の異動

令和5年3月

- ・永年、経済学研究院（経済学研究科）・経済学部の教育や研究に尽力された先生方が当大学を去られました。
- 教授 今井 晋→一橋大学ソーシャル・データサイエンス研究科 教授
- 教授 大野 由夏
- 教授 松尾 睦→青山学院大学経営学部 教授
- 教授 吉見 宏

各先生方のいっそうのご活躍とご健勝を心からお祈りいたします。



おかげさまで創立50周年

同窓会サポート企業

SALAT 株式会社 サラト

■本社 〒670-0948 兵庫県姫路市北条宮の町172
TEL 079-284-1380

■東京支社 〒110-0016 東京都台東区台東4-18-7 シモジンビル5F
TEL 03-3832-6381



<https://salat.co.jp>

ぜひ、ご参加ください

今年は久々に対面でホームカミングデーが開催されます。みなさま、是非ご参加下さい。

北海道大学ホームカミングデー2023 公開シンポジウム

出会いの数だけ ドラマは生まれる



講演者

小説家 ^{さくらぎ} 桜木 紫乃氏

1965年釧路市生まれ。2002年「雪虫」で第82回オール讀物新人賞を受賞。2007年同作を収録した単行本「永平線」を刊行。2013年「ラブレス」で第19回島清恋愛文学賞、同年「ホテルローヤル」で第149回直木賞、2020年「家族じまい」で第15回中央公論文芸賞を受賞。最新作は「孤蝶の城」(新潮社)。ほかにも『起終点駅(ターミナル)』『砂上』『ふたりぐらし』『光まで5分』『緑の河』『権と朗匠とブルーボーイ』とストリッパー『ブルースRed』。絵本『いつかあなたを わすれても』(オザワミカ・絵)、『サチコさんのドレス』(そら・絵)など、著書多数。

美しい風景や美味しい食べ物との出会い、そして何より、人との出会いは人生を豊かにします。北海道大学を卒業された皆さまは、キャンパスやその周辺でたくさんの出会いを経験されたはず。また、卒業後にも、国内外のさまざまな場所で、数多くの人と出会い、時にはその出会いが生き方を変えるきっかけになった方もいらっしゃるでしょう。講演では、北海道生まれ、北海道の人間と風景を描き続けた小説家、桜木紫乃氏に、どのような出会いがあり、その出会いからどのようなドラマが生まれたのかを、対談形式で語っていただきます。司会役である九州出身の岡田美弥子氏にも、コンテンツビジネスを研究するきっかけになった出会いなどについて、授業では聞けないエピソードを交えて語っていただきます。「出会い」というキーワードから、これからの人生を考えるヒントを探していただければと思います。



司会

北海道大学大学院経済学研究院 教授

おかだ みやこ
岡田 美弥子

1964年北九州市生まれ。1995年北九州市立大学経済学部卒。2000年神戸大学大学院経営学研究科博士課程修了。博士(経営学)。2001年より北海道大学大学院経済学研究科へ。現在に至る。著書『マンガビジネスの生成と発展』。専門分野と現在の研究はコンテンツ産業のビジネスシステム。

日時

2023年 **9月30日** 土
14:00~16:00

会場

北海道大学
人文・社会科学総合教育研究棟
W103教室

オンラインでも同時配信します 詳細は9月に入ってから経済学部同窓会HPに掲載します。http://hokukeialm.starfree.jp/hoku-alm/

同日に**経済学部同窓会総会**と**懇親会**を開催いたします。(総会はオンラインでも参加できます)

日時: 9月30日(土) **総会** 午後4時から約1時間、**懇親会** 午後5時半から1時間半ほど

会場: **総会** 文系共同棟 2番教室

懇親会 ジンギスカンの義経(北区7条西5丁目、会費 4,000円を予定)

出席希望の方は9月14日(木)までに事務局まで「氏名、卒業年、住所、メールアドレス」をメールにてご連絡ください。懇親会のキャンセルは基本受け付けられませんのでご注意ください。

事務局 メールアドレス dosokai@econ.hokudai.ac.jp TEL 011-706-4113



名刺広告

パリアフリー本の子ども図書館
公益財団法人 ふきのとう文庫
代表理事

高倉 嗣昌
(経 昭和36年卒)

札幌市中央区北6条西12丁目8-3
TEL 011(262)48339

札幌監査法人

代表社員 公認会計士

高野 一夫
(経 昭和45年卒)

札幌市中央区南一条西十二丁目新永ビル
TEL 011(261)75112

弁護士

吉川 正也
(経 昭和46年卒)

札幌市中央区大通西十二丁目南大通ビル4階
TEL 011(261)6677

上野公認会計士事務所

公認会計士

上野 昌美
(経 昭和47年卒)

札幌市中央区南3条西9-1-25
TEL 011(522)8170

遠藤公認会計士事務所

公認会計士

遠藤 昭一
(経 昭和48年卒)

札幌市東区北二十一条東十八丁目三番三
TEL 011(783)8126

弁護士

工藤 倫
(経 昭和50年卒)

札幌市中央区北五条西十二丁目一番地
ベルックス北五ビル B館二階
TEL 011(266)5275

田中利男税理士事務所

税理士 中小企業診断士

田中 利男
(経 昭和50年卒)

札幌市中央区南3条西6丁目3-2
南3条グランドビル601
TEL 011(261)2061

株式会社ターフテック

代表取締役

宮本 裕司
(経 昭和50年卒)

北広島市大曲工業団地五丁目一番地二
TEL 011(377)4011

不動産鑑定士 宅地建物取引士

目黒 健児
(経 昭和54年卒)

メトロオフィス株式会社 代表取締役
札幌市中央区南一条西六丁目十四番地
大友ビル四階南 交通通い南側
TEL 011(218)3566

不動産の鑑定評価と仲介

吉田大吾税理士事務所

税理士

吉田 大吾
(経 平成11年卒)

札幌市中央区南3条西12丁目320-8
札幌森ビル3-3階
TEL 011(206)4236

税理士法人北前会計

統括代表社員・CEO(公認会計士・税理士)

中村 泰道
(経 平成12年卒)

札幌市北区北7条西2-20 NCC札幌駅北口2階
TEL 011(299)2624
E-mail: y-nakamura@kianae.or.jp

野村不動産株式会社

顧問

永松 昌一
(経 昭和57年卒)

北海道大学東京同窓会 会長
株式会社 トクヤマ
代表取締役社長

横田 浩
(経 昭和60年卒)

東京本部
東京都千代田区外神田1-7-5 フロントプレイ秋葉原
TEL 03-5207-2500

監査法人ライトハウス

代表社員 公認会計士

北村 好孝
(経 平成4年卒)

札幌市中央区南一条西11丁目コナチンタルビル
TEL 011(232)7102

監査法人ハイビスカス

代表社員 公認会計士

堀 俊介
(経 平成6年卒)

札幌市中央区北4条西5丁目1-4
大樹生命札幌共同ビル8階
TEL 011(826)5265

牧田税理士事務所

税理士

牧田 秀崇
(院経済 平成22年卒)

苫小牧市音羽町1丁目8番6号
TEL 0144(34)0385
URL: http://www.tamaki.com

渡辺組ホールディングス株式会社

株式会社 渡辺組

渡辺 勇喜
(経 平成17年卒)

本社
紋別郡遠軽町南3丁目
TEL 0158(42)3171

池田裕一公認会計士事務所

池田 裕一
(経 平成15年卒)

札幌市中央区南2条西5丁目10-2
サンワイド南2西5ビル4階
電話 011(231)5240

名刺広告を募集します お申し込みは同窓会事務局まで

TEL & FAX (011)706-4113
Email dosokai@econ.hokudai.ac.jp

おかげさまで、105年。伝統の美味しさをご一緒に。

献上銘鉢
銀峰
味淋焼かまぼこ
賜 東宮御所献上之栄
農林大臣賞
厚生大臣賞
名誉・栄誉大賞



創業大正七年／札幌・二条魚町

蒲鉾の **かねひこ**

一般社団法人 日本かまぼ協会 副会長
代表取締役社長 **中島 代博**
(平21年 修士卒)

<https://www.kanehiko.jp>



札幌農学校が生んだ、幻の玉ねぎ「札幌黄」を練り込んだ揚げ蒲鉾「札幌黄たまねぎ揚げ」も好評発売中です。

協賛金(学生支援金)ありがとうございました

「協賛金」は在学中の学生に対する勉学や研究活動の支援・環境の整備改善・就職セミナー・学生の物資支援などにつかわれます。一般会費とは厳正に別管理とし、学部長と用途を協議して有効に活用しております。

今後とも母校後輩へのサポートをよろしくお願い致します。

ご賛同頂いた皆様は下記のとおり（敬称略、カッコ内は卒年）

- 3万円** 井筒省三 (S.26), 鈴木正司 (S.51), 橋本暢仁 (S.55)
- 2万円** 西川平治 (S.36), 榎本英雄 (S.47), 小野寺茂 (S.47), 田中利男 (S.50), 鞠谷仁士 (S.55)
- 1万円** 横山正之 (S.33), 小亀慶曙 (S.37), 小柳征夫 (S.37), 高田迪允 (S.37), 西本紀夫 (S.37), 中島孝昭 (S.39), 中川原慶憲 (S.41), 速水邦彦 (S.44), 高野一夫 (S.45), 湯川康史 (S.47), 塩谷哲実 (S.47), 太田広三 (S.48), 廣田克紀 (S.48), 西下 充 (S.51), 北浦和憲 (S.51), 宮下隆幸 (S.53), 目黒健児 (S.54), 小野寺誠志 (S.56), 田島正博 (S.56), 川村和彦 (S.60), 熊田和仁 (S.60), 山本真司 (S.60), 柚山 淳 (S.61), 安住昌紀 (H.11), 中村宙正 (H.12), 浅野賢太郎 (H.13), 黒阪健吾 (H.19), 並河史朗 (H.24), 古良直之 (H.27), 小林航也 (H.30), 伊藤千尋 (R.3), 大畑就義 (R.3), 池尻愛菜 (在), 小松祐雅 (在), 千葉信輝 (在), 戸田文音 (在), Harrod Emily (在)

皆様から頂いた協賛金(学生支援金)の用途

- ・ 卒論表彰
- ・ 北海道の経済を活性化させるための地域経済活性プラン コンテスト
- ・ 出前講義（交通費のみ）
- ・ その他

皆様の熱い協力とご支援が必要です。何とぞよろしくお願いいたします。

令和5年6月期収支報告書

	項 目	金 額(円)	備 考
収入の部	前期繰越金	12,078,250	
	会費収入	2,571,000	年会費, 終身会費
	協賛金収入	563,000	
	広告収入	348,000	会報38号
	総会収入	0	
	その他収入	3,052	
	計	15,563,302	
支出の部	事 務 費	660,850	事務局実費
	総会費用	0	
	会報作成費	317,460	会報38号
	助 成 金	35,000	優秀論文賞
	協賛金からの支払い	154,459	出前授業, 地域活性プラン表彰
	通 信 費	586,562	発送代
	消耗品費	9,091	プリント関連
	印 刷 費	0	
	旅 費	0	
	雑 費	10,000	小山先生供花代
	支払手数料	52,848	振込手数料負担分
	計	1,826,270	
	収支差額	13,737,032	次期繰越金に充当

決算は7月14日付けで小泉修一監事, 久保淳司監事により決算報告書が正確かつ適正に処理されたことを認める「監査報告書」を受領しております。



TOTAL PRINTING

株式会社 須田製版
https://www.suda.co.jp

●札幌本社 〒063-8603 札幌市西区二十四軒2条6丁目1-8 TEL.011-621-1000 FAX.011-621-1500
●旭川支社 〒070-8045 旭川市忠和5条8丁目3-1 TEL.0166-62-2266 FAX.0166-61-8818
●釧路支店 ●苫小牧支店 ●東京支店 ●滝川営業所 ●北見営業所

未来への飛躍

モノクロームの写真製版から出発した私たちの歴史はテクノロジーと品質追求の歩みでもありました。変貌していく時代の中で新しいことに挑戦を続けながら、一貫して核としてきたのは、高い品質を追求する「ものづくりの精神」。私たちは一世紀にわたって培ってきた知識と技術を生かし、ものづくりを通して未来へと続く社会に貢献していきます。



大正十二年創業。須田製版は北海道を拠点とした総合印刷会社です。



グループ会社
有限会社 シグナル

会費のお願い

年会費 3,000円
終身会費 30,000円

振込方法は郵便局、コンビニ、スマートフォンにて同封の
「払込取扱票」にてお願いいたします。

なお、協賛金（学生支援）は郵便局のみとなりますので
ご注意ください。

同窓会活動は会員からの会費収入によって成り立っております。現役の学生
を同窓会に迎えたことで財政的には一時的には余裕のある状況となりました
が、トータルでみるとまだまだ厳しいと言わざるを得ません。どうかご理解
をいただき年会費（3,000円）の継続入金と終身会費の納入をお願い申し上げ
ます。

協賛金は一口1万円とし、その用途は原則全額を現役学生への支援に充てま
す。従来から行っている卒業を祝う会や優秀論文への寄付増額にとどまらず、
ゼミ研究・就職活動の支援に使用します。

他学部では同窓会による「寄附金講座」など新設する動きもありますが、身
の丈に合った経済学部らしい有効策を、スピード感を持って具現したいと考
えております。

なお、協賛金を納めていただいた方のご芳名を同窓会報に記させていただきます。

また、一昨年会報で既報の通り、終身会費納入者以外で直近5年間一度も
年会費（3千円）を納めていただけない会員に対しては、会報の送付は行
いません。

どうかご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。

編集後記

- コロナを取り巻く環境も5月の2類相当から5類感染症に変更になったことで大きく変わりました。大学も以前と変わらない状況になりましたが、学生がかかった、職員がかかった、ということがそこそこおきています。以前と全く同じということにはなかなかそうにはありません。コロナの流行はもうとくに第9波に入っているという専門家もいます。特效薬が出てくるまでwithコロナは続きそうです。
- 今年は年明け早々に吉見宏副学長・理事の訃報が入り、吉見先生を知る教職員、学生に衝撃が走りました。昨年中程より体調を崩されていることは存じていましたが、このような早いお別れが来るとは誰も思いもよりませんでした。本当にお話好きで、乗り物が大好きで、ビールも大好きで、優しい先生でした。特集でもありましたが、吉見ゼミの皆さんもまだ信じられない気持ちかと思えます。ドアを開けてひょっこりと〇〇さんいる？とまだ先生が現れるのではないかなと思ったりもします。先生のご冥福を深くお祈りいたします。
- 事務局も3年目となりましたが、相変わらずこの編集後記を書く頃はばたばたしています。同窓会室は月火水金の午後オープンしておりますので、どうぞお気軽にお立ち寄り下さい。同窓会報の原稿も広告も随時募集しておりますので、お寄せください。
- 昨年度から始まった新たな学生支援「出前授業」と「地域経済活性化プランコンテスト」についてこの会報で報告してございます。どちらも、たくさんの同窓生、学生にご協力、ご参加をいただきました。これからもみなさまのご支援が必要です。何とぞご協力いただけますようよろしくお願いいたします。
- 今年のホームカミングデーの文系4部局合同シンポジウムは4年ぶりに経済学部が当番校です。たくさんのみなさまのご参加をお待ちしております。先日初めてメーリングリストでこのホームカミングデーのご案内を出しました。メールアドレスを登録されていない方は、会費の振り込み用紙に記入していただいてもけっこうですので何とぞ登録をお願いします。事務局に直接お知らせいただいてもけっこうです。
- 現在の同窓会は卒業した同窓生10,561名（亡くなった方を抜きました）、学部同窓生776名、院生同窓生160名という構成になっています。

2023/8/3 記



苫小牧市にある
いすゞエンジン製造北海道(株)には、
北海道大学経済学部を卒業された
皆さんの活躍できるフィールドがあります。

U/I/Jターン歓迎!

弊社は1984年に苫小牧に設立
(当社の前身)以来、いすゞグループ
の中の、自動車用エンジン部品、
および、トランスミッション関連部品の
生産拠点として、「運ぶ」を支えて
います。

いすゞエンジン製造北海道株式会社

〒059-1362 北海道苫小牧市柏原1番地4
(代表) TEL 0144-55-1221
<http://www.iemh.isuzu.co.jp>